

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
読売理工医療福祉専門学校		昭和51年6月1日		渡邊 敏章		〒108-0014 東京都港区芝5-26-16 (電話) 03-3455-0221																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人読売理工学院		昭和45年1月31日		千葉 康文		〒108-0014 東京都港区芝5-26-16 (電話) 03-3455-0221																	
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
医療	医療専門課程	臨床工学専攻科		平成19年文部科学省 告示第21号																			
学科の目的	臨床工学技士養成校として厚生労働省が指定する科目に沿って、医療技術や必修科目を取得し国家試験合格を教育目標とすることに加え、医療従事者としてふさわしい人材を育成することを目的とする。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	夜間	2015単位時間	1535単位時間	0単位	480単位時間	0単位	0単位																
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
80人		40人	0人	5人	26人	31人																	
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ■成績評価の基準・方法について 試験、出席、実習レポート課題等の総合評価 進級: 1学年の必修科目を全て修得																		
長期休み	■学年始め: 4月1日～7日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月7日 ■学年末: 3月21日～31日			卒業・進級 条件	卒業: 必修科目81単位の修得																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ■長期欠席者への指導等の対応 電話連絡、個人面談			課外活動	■課外活動の種類 サークル活動、ボランティア、学園祭実行委員 ■サークル活動: 有																		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 病院、医療メーカー ■就職指導内容 個人面談、模擬面接 ■卒業生数 : 17 人 ■就職希望者数 : 16 人 ■就職者数 : 15 人 ■就職率 : 94 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 88 % ■その他 ・進学者数: 0人 ・国家試験不合格者数: 1人 ・就職希望無し: 1人 ・継続勤務: 2人(内1人は国家試験不合格) (平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床工学技士 国家資格</td> <td>②</td> <td>17人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>ME1種検定</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>ME2種検定</td> <td>③</td> <td>26人</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	臨床工学技士 国家資格	②	17人	16人	ME1種検定	③	1人	0人	ME2種検定	③	26人	12人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
臨床工学技士 国家資格	②	17人	16人																				
ME1種検定	③	1人	0人																				
ME2種検定	③	26人	12人																				
中途退学 の現状	■中途退学者 3 名 ■中退率 7.5 % 平成28年4月1日時点において、在学者40名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者37名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 出席不良 成績不良 経済困窮 ■中退防止・中退者支援のための取組 各科目ごとの補習 クラス担任による指導 スクールカウンセラーによる学生カウンセリング 奨学金活用・授業料の延納分納対応																						
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ※有の場合、制度内容を記入 ①学費支援制度(新入生対象) 経済的な事情で進学を諦めなければならない状況にある、勉学意欲があり本校への入学を強く希望している方で、世帯年収の目安が500万円以下を対象としています。 ②小林與三次記念育英奨学金制度 経済的な事情で進学を諦めなければならない状況にある、勉学意欲があり学業の優秀な本校の在校生を対象とした奨学金 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 有・無 非給付対象 平成27年入学生5名 平成28年入学生7名																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科の ホームページ URL	http://www.yomiuririkou.ac.jp/course/clinical ss/																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

臨床工学科は臨床工学技士の養成課程であり、病院での臨床実習が180時間、厚労省より義務付けられている。実習病院としては、大学病院、総合病院などであり、最先端の医療現場での実習を行っている。

また、学内の生体機能代行装置、医療機器関しての講義、実習に関しても病院の技士長クラスの臨床工学技士を非常勤講師として招聘し、常に最先端の技術を教育に反映させている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

臨床工学科が、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成に活かす事を目的として教育課程編成委員会を設置する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
平井 紀光	日本医療科学大学 保健医療学部 臨床工学科 教授	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	②
笹口 友美	学校法人北里研究所 北里大学北里研究所病院 看護部	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	③
大田 亜葵子	医療法人社団 昇陽会 阿佐ヶ谷すずき診療所 臨床工学部	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	③
菅野 敬祐	読売理工医療福祉専門学校 校長補佐・臨床工学系学科 学科長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	
加藤 康晴	読売理工医療福祉専門学校 臨床工学系学科 専任教員	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年7月頃に前年度の検証を行い、11月頃に次年度の方針を決定していく方針で、年2回開催する。

(開催日時)

第1回 平成28年 7月29日 18:30～20:00

第2回 平成28年11月25日 18:30～20:01

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

今年度開催された、教育課程編成委員会が出された意見を検討した結果、次年度については次の項目を教育課程に活用する。

① 新入生の導入教育について

意見

- ・一般教養や基礎科目が多いので、勉強に対するモチベーションが保てない。

対策案

- ・特別講和などで1年目から現場の意見を聴く機会を作り、専門的な知識や現場の厳しさに触れることのできる機会を作る。

② 学習方法の指導について

意見

- ・学生の中には授業の受け方、ノートの取り方、自己学習のやり方が分かっていない学生がいる。
- ・テストで悪い点でも気にせず、自分の成績に無頓着。
- ・勉強は携帯端末等に情報を入れて読むだけ。

対策案

- ・オリエンテーションなどでノートの取り方、配布プリントの整理方法、自己学習の進め方等について指導を行う。
- ・授業ノートの定期的なチェック実施や見本となるノートなどを見せ指導を行う。

③ 工学系科目の指導方法について

意見

- ・工学系の科目を苦手としている学生が非常に多い。

対策案

- ・工学系科目で基本的な問題を解かせる時間を定期的にする。
科目：電気工学、電子工学、計測工学、応用数学
- ・実習の際に工作など興味を持ちやすい課題も実施し、工学系科目への興味につなげるよう仕向ける。
科目：電気工学実習、電子工学実習

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等の人材ニーズを活かしつつ、医療業界の現場で必要となる実践的かつ専門的な能力を育成するため、実習・演習等の授業において、企業等との組織的な連携を通じ、最新の技術動向が反映された技術・技能を教育する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実習・演習等において、授業内容や方法、成績評価について、企業等と連携する。臨床実習については実習ガイドブックを作成し、その内容に基づいた実習内容、実習評価について、綿密な打ち合わせを行う。

また、機器実習として、医療機器メーカーの講義・実習を行い、最新医療機器に実際触れながら学べるよう連携する。

「連携企業等」

1. 東京都済生会中央病院
2. 日本医科大学附属病院
3. 池上総合病院
4. 東京女子医科大学病院
5. 板橋中央総合病院

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	臨床工学技士の行う主な業務について見学を中心にして実際の知識を身につける。	東京都済生会中央病院、 日本医科大学附属病院 他
生体機能代行技術学実習	呼吸・循環・代謝に関係ある生体機能代行装置の適切な操作と保守点検ができるように生体機能代行装置の基本知識と技術について実習をする。	日産厚生会玉川病院、 大崎病院東京ハートセンター
医用治療機器学実習	医用機器の適切な操作と保守ができるよう、医用治療機器の基本事項を実習を通じて理解する。	日本メディカルネクスト、 日本メトロニック株式会社
生体計測装置学実習	生体計測装置の適切な操作と保守ができるよう、その基本事項について実習をする。	日本メディカルネクスト、 日本メトロニック株式会社
医用機器安全管理学実習	医用機器の臨床応用を高い安全性及び信頼性をえて行えるよう、安全管理に関する基礎事項について実習をする。	日本メディカルネクスト、 日本メトロニック株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

日本臨床工学技士教育施設協議会や日本臨床工学技士会等が開催する研修会や、東京都専修学校各種学校協会・東京都私学財団等が開催する研修会に計画的に参加し、実務に関する知識・技術の修得と学生指導力の向上を目指す。

また、次年度は企業、病院、大学等から講師を招聘し、校内で教員対象の実務に関する研修会を開催し、最新の知識を得る機会とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・平成28年6月 第24回東京都臨床工学技士会
内容：臨床工学技士業務の現状と今後の展望
教育内容：臨床工学分野全般
- ・平成28年6月 LivaNova技士学校教育セミナー
内容：人工心肺装置についてのセミナー
教育内容：生体機能代行技術学
- ・平成28年8月 第2回 心カテセミナー
内容：循環器領域における臨床工学技士との関わりと今後の展望、その他
教育内容：医用治療機器学、放射線工学概論
- ・平成28年10月 HOSPEX Japan
内容：病院/福祉設備機器の専門展示会
教育内容：医用治療機器学、生体計測装置学、医用機器安全管理学

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・平成28年6月 第31回 一般社団法人 日本臨床工学技士教育施設協議会 社員総会および教員研修会
内容：臨床工学技士養成施設に望むこと、その他
教育内容：臨床工学分野全般
- ・平成28年11月 日本臨床工学技士教育研究会
内容：急速に拡大し続ける循環器治療領域業務における学生教育・臨床実習教育はこれ十分なのか
教育内容：生体機能代行技術学
- ・平成29年1月27日
臨床心理士による学生カウンセリングに関する研修
- ・平成29年3月 連携企業「日本医療科学大学」による教員研修会
対象：臨床工学系学科教員
内容：臨臨床工学技士養成教育の今後
期間：1時間30分
連携：連携企業

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

実習先病院・企業と連携し最新技術等についての研修を計画

②指導力の修得・向上のための研修等

学生指導に関しても、障害を持つ学生の扱いなどに関する以下の研修を計画。

- ・臨床心理士による研修会 内容:学生カウンセリングの現状
- ・東京都専修学校各種学校協会実施の研修会への積極的な教職員の参加

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、臨床工学系学科の関連業界、卒業生、保護者など学校と密接に関係する者の理解促進と継続した連携協力体制の確保により、学校運営・教育内容の改善を図るため「学校関係者評価委員会」を設置し、当委員会の意見を学校運営等の改善に活用するとともに結果を公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念、目的、育成人材像、特色
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、意思決定機能
(3) 教育活動	教育目標、教育課程、成績評価基準、資格取得の指導体制、授業評価
(4) 学修成果	就職率、資格取得、退学率、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職指導、学生相談、健康管理、課外授業、保護者との連携
(6) 教育環境	施設・設備の整備、インターンシップ、海外研修、防災体制
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10) 社会貢献・地域貢献	教育資源・施設の活用、学生ボランティア活動、公開講座・教育訓練の実施
(11) 国際交流	海外研修、留学生の受入れ・在籍管理・就職指導

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

企業委員からの評価

新入社員の中には、挨拶が出来なかつたり、仲間作りも出来ず、職場でチームに入れずに退職していく人がいる。大変残念なことだが、受入れた企業側としても人員計画に困っている。多くは、家庭での躰がなっていないのもあるが、学校でもコミュニケーション能力が付くように指導して欲しい。

学校としての活用

この問題については学校も以前より取り組んでおり、就職先からも一定の評価を得ているが、最近の学生は挨拶が出来ない傾向にあるのは確かなこと。その対策として本校ではコミュニケーション能力について、読売式メソッドの柱の一つ「人間力」の中で重要と考え学校全体として考えている。今後のさらに各授業を通して指導していくが、本校は分野違いの学科が多く、学校全体として「挨拶運動」や「学科間の学生交流」など工夫し強化する。それと合せ、留学生についても国ごとに集まってしまう傾向があるので、日本人との交流を密に出来るようにしていく。また、コミュニケーション不足は学校での学生の孤立化にもつながり除籍退学率に影響を及ぼすことであり、除籍退学率を減少させる中でもクラス全体の交流が必要であり、今後取り組んでいく。

企業委員からの評価

業界や企業から講師が来て講義を行うことも重要だが、インターンシップは業界や企業を肌で感じられ職業意識も高まる。すべての学科でインターンシップを正課で実施してはどうか。

学校としての取組

本校でも複数の学科では正課としてインターンシップを実施しているが、学校全体で正課の科目設定となるとカリキュラム上で資格認定との関係があり直ぐに実施は難しいが、春・夏・冬の休み期間に選択科目として出来るだけ多くの学生に機会を与えるように検討して行く

地域委員からの評価

学校と地域の交流では、商店街のイベントのポスター制作を授業課題として実施してもらったり、ボランティアとしてよさこいクラブがイベントに参加したりと協力を頂いているがより一層連携を強めて行きたい。

学校としての取組

学校として、地域貢献とボランティア活動に就いては、大学等では学生の自治組織で行っているところもあるが本校にはその組織が無いので、手始めとして今年度は各学科のクラスを代表するクラス委員決めてもらった。今後、学科の枠を超えたクラス委員会等を通じて協力できる体制を強めていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
渡部 俊一	読売理工専校校友会 副会長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	卒業生委員
植田 三喜男	臨床工学科学生保護者	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	保護者委員
湯浅 孝雄	慶応仲通り商店会 会長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	地域委員
羽場 宏祐	(株)インターナショナルクリエイティブ 特別顧問	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	企業委員
鹿毛 信一	河端建設(株) 工事部部长	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	企業委員
武田 知明	東邦電計(株) 営業部部长	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	企業委員
笹口 友美	北里大学北里研究所病院 看護部 看護師	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	企業委員
大庭 尚子	港区立特別養護老人ホーム港南の郷 保健 課長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	企業委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(○ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 公表時期 9月上旬 1月下旬

<http://www.yomiuririkou.ac.jp/about/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が本校の全般について理解を深めるとともに、連携および協力の推進に資するため、本校の基本的情報を含めた必要な情報を分かり易い形で、ホームページを通じて恒常的に提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の育成人材像、特色、沿革
(2) 各学科等の教育	定員、入学者数、在籍者数、教育課程、進級、卒業要件、目標資格
(3) 教職員	教員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援、インターンシップ
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学生相談室、留学生相談室
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金制度
(8) 学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	海外研修派遣制度
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.yomiuririkou.ac.jp>

授業科目等の概要

(医療専門課程臨床工学専攻科：夜間部) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			公衆衛生学	健康の保持、予防医学の重要性を認識させ、公衆衛生の分野について学ぶ。疾病、人工動態、生活環境、公害、食品衛生、社会福祉と社会保障など。	2前	30	1	○			○			○		
○			医学概論	医学の歴史の変遷、医療機器の歴史の変遷、将来の展望および、医療従事者の倫理などについて学習する。	1前	15	1	○			○				○	
○			臨床生理学	酸塩基平衡や呼吸機能、心電図など生理学を理解し、疾病や生理機能の関連および検査方法について学習する。	2前	30	1	○			○					○
○			臨床生化学	個体および細胞の化学的厚生成分およびそれらの構成成分が示す化学反応と代謝機序、また生化学の疾病との関連について学習する。	1後	40	2	○			○				○	
○			臨床免疫学	人体の免疫血清学および各種免疫の概要、輸血検査などについて学習する。	2後	30	1	○			○					○
○			臨床薬理学	臨床で使用される薬剤の作用機序、適応などを中心に学習する。 1. 呼吸器系薬剤 2. 循環器系薬剤 3. 利尿剤 4. 脳神経系薬剤 5. 抗生剤	2前	30	1	○			○					○
○			看護学	患者に接するにあたって要求される基本的態度や考え方を学ぶ。 1. 看護の本質と基礎 2. 患者への対応 3. 患者の心理	2前	30	1	○		△	○					○

授業科目等の概要

(医療専門課程臨床工学専攻科：夜間部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			解剖生理学	臨床工学技士に必要な細胞、組織、器官系の知識を通じ、人体の構造および機能を学ぶ。	1通	80	4	○			○			○	
○			病理学概論	病理学の概要、代謝障害、循環障害、炎症、新生物などの病理学像および細胞検査や血液学的検査などを学ぶ。	1後	30	1	○			○			○	
○			基礎医学実習	人の構造および機能、病理学で学ぶ細胞などについて実習を行うことにより構造的、機能的、形態的に理解を深める。	1後	30	1			○	○	△	○	○	
○			応用数学	臨床工学に必要な数学の基礎について学ぶ。代数学、微分積分学、微分方程式、フーリエ級数とフーリエ変換、確率統計学、その他。	2通	60	3	○	△		○			○	
○			電気工学	臨床工学に必要な電気工学の基礎について学習する。 1. 電荷と磁界 2. 導体と電流 3. 電流と磁界 4. 電磁誘導 5. 直流回路 6. 交流回路 7. 過渡現象	1通	80	4	○	△		○			○	
○			電気工学実習	臨床工学に必要な電気工学についてその理解を深めるために実習を行う。	1後	30	1			○	○			○	○
○			電子工学	臨床工学に必要な電子工学の基礎について学習する。 1. 臨床工学と電子工学 2. 電子回路と通信	1通	80	4	○	△		○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程臨床工学専攻科：夜間部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			電子工学実習	臨床工学に必要な電子工学の基礎についてその理解を深める為に実習を行う。1. 電子回路と通信 2. 増幅 3. アナログ回路 4. デジタル回路と電子計算機 5. 通信	1後	30	1			○	○		○	○	
○			機械工学	臨床工学に必要な機械工学の基礎について学習する。1. 機械力学 2. 生体の運動 3. 流体の法則 4. 振動と超音波 5. 熱力学と機械	2前	40	2	○			○			○	
○			放射線工学概論	放射線の基本知識から生体への影響、医学や医療への応用や安全管理、その他について学習する。	2前	30	1	○			○			○	
○			システム工学	臨床工学に必要なシステム理論、信号理論、制御理論の基礎について学習する。1. インパルス応答と伝達関数 2. スペクトル 3. 雑音 4. 相関関数 5. フィードバック	2後	30	2	○			○			○	
○			情報処理工学Ⅰ	臨床工学に必要な情報処理工学の基礎について学習する。1. 臨床工学と情報処理工学 2. 情報処理工学理論	1前	15	1	○			○			○	
○			情報処理工学Ⅱ	臨床工学に必要な情報処理工学の基礎について学習する。1. 計算機の原理 2. 計算機のソフトウェア 3. 数値計算アルゴリズム 4. デジタル信号処理	1通	45	3	○	△		○			○	
○			システム・情報処理実習	実習を通してシステム工学および情報処理工学の理解を深める。1. 波形とスペクトル 2. システム応答のシュミレーション 3. フィードバック制御 4. プログラミング	2後	30	1			○	○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程臨床工学専攻科：夜間部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			医用機器学 概論	医用機器の全体像を把握し、臨床医療における医用機器の役割について学習する。1. 医療機器と関連技術 2. 医用機器の人体への適用 3. 医療機器などの構成と原理	1前	60	2	○			○			○	
○			医用治療 機器学	医用機器の適切な操作と保守ができるよう、医用治療機器の基本事項を理解する。1. 電気的治療機器の原理・構造・操作・保守 2. 手術用機器の原理や構造など。	1前	60	2	○			○			○	
○			医用治療機器 学実習	医用機器の適切な操作と保守ができるよう、医用治療機器の基本事項を実習する。1. 電気的治療機器の原理・構造・操作・保守 2. 手術用機器の原理や構造など。	1後	30	1			○	○			○	△
○			生体計測装置 学	生体計測装置の適切な操作と保守ができるようその基本事項について学ぶ。1. 生体計測の基礎 2. 循環器系計測器の構成と原理 3. 呼吸器系計測器の構成と原理	1後	60	2	○			○				○
○			生体計測装置 学実習	生体計測装置の適切な操作と保守ができるようその基本事項について実習する。1. 生体計測の基礎 2. 循環器系計測器の構成と原理 3. 呼吸器系計測器の構成と原理	1後	30	1			○	○			○	△
○			生体機能代行 技術学	呼吸・循環・代謝に関係ある生体機能代行装置の適切な操作と保守点検ができるように基本的知識と技術について学習する。	1通	##	9	○			○			○	○
○			生体機能代行 技術学実習	呼吸・循環・代謝に関係ある生体機能代行装置の適切な操作と保守点検ができるように基本的知識と技術について実習を行う。	2前	90	3			○	○			○	○

授業科目等の概要

(医療専門課程臨床工学専攻科：夜間部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			医用工学概論	医用工学の歴史と学問領域、医用工学・臨床工学の将来像の医用工学全体について体系的に教授する。	1前	30	1	○			○			○	
○			物性工学	工学的な観点から生体の特性について学ぶ。1. 臨床工学と生体物性 2. 生体の構造と特性 3. 電気特性 4. 電気安全 5. 生体の変形と流動 6. 振動や超音波特性	2前	40	2	○			○			○	
○			材料工学	生体特性と人工材料について学ぶ。1. 材料工学と生体 2. 臨床工学と材料工学 3. 人工材料の生体適合性 4. 金属材料 5. 高分子材料	2前	40	2	○			○			○	
○			計測工学	生体計測装置を理解することを基本とし、各種測定器の原理と測定法や各種生体物理量の計測、生体化学量の計測、画像計測などを学ぶ。	1前	40	2	○			○			○	
○			医用機器安全管理学	医用機器の臨床応用を高い安全性及び信頼性を得て行えるよう、安全管理に関する基礎事項について学習する。	1前	60	2	○			○			○	
○			医用機器安全管理学実習	医用機器の臨床応用を高い安全性及び信頼性を得て行えるよう、安全管理に関する基礎事項について実習を行う。	1後	30	1			○	○			○	△
○			関係法規	臨床工学技士として必要な法令について学習する。1. 医事法 2. 臨床工学技士法 3. 関連法規 4. 医療過誤 5. その他	2前	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程臨床工学専攻科：夜間部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			内科学	臨床工学技士業務に必要な臨床医学的知識（内科学）について幅広く学習する。	1 通	60	2	○			○			○	
○			外科学	臨床工学技士業務に必要な臨床医学的知識（外科学）について幅広く学習する。	2 前	60	2	○			○			○	
○			救急救命医学	臨床工学技士業務に必要な臨床医学的知識（救急救命医学）について幅広く学習する。	2 前	60	2	○			○			○	
○			臨床実習	臨床工学技士業務について病院で見学を中心に実際の知識を身に付ける。1. 血液浄化装置実習 2. 集中治療室実習 3. 手術室実習 4. 医療機器管理業務実習	2 後	##	4			○	○			○	○
○			臨床工学特別講義	臨床工学における現状や問題点などについて考える。	2 通	60	2	○			○		○	○	
合計			40科目		2015単位時間(81単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：必修科目81単位の修得で卒業とする。 履修方法：臨床実習は「血液浄化装置実習」、「集中治療室実習」、「手術室実習」、「医療機器管理業務実習」の4科目全てを修得した場合のみ単位を与える。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。